

目次／企画展「赤色に宿るチカラ」表紙／いわて自然ノート「岩手のトンボ調査中！」 p.2-3／展覧会案内「赤色に宿るチカラ」 p.4-5／事業報告「博学連携事業 岩手県立平館高等学校の生徒による操り人形装束製作」／活動レポート「チャレンジ!はくぶつかん」 p.6／事業報告「トピック展 小林陵侑選手ジャンプスーツ」／解説員室より「博物館を見た後は…」 p.7／インフォメーション p.8

企画展

赤色に宿るチカラ



赤色は太陽や血など生命を象徴する色であり、美しさや派手さを表現するときにもよく使われてきました。この赤色に宿るチカラは、どのような資料に表され、人々にどのような影響を与え、暮らしの中で生かされてきたのでしょうか。

## ■いわて自然ノート

# 岩手のトンボ調査中!

主任専門学芸員 渡辺 修二

### ■四季のトンボ

「蜻蛉」が秋の季語とされているように、トンボは秋の虫であるような印象がありますが、実際には他の季節にも多くの種類が現れます。日本では約200種のトンボが記録されており、岩手県ではその内の約80種が見られます。

春、田植えのころには、モイワサナエ(図1)やコサナエなど、「早苗」の名を持つサナエトンボのなかまが姿を見せます。アキアカネ(図2)など赤トンボのなかまであるアカネ属は、夏を迎える前の7月初めころに羽化が始まります。夏にはオニヤンマ(図3)やルリボシヤンマなど、多くの種類が活発に飛び交い、秋になると、アカネ属のトンボが成熟して赤く色づいた姿を見せます。晩秋、ほかのトンボが姿を消す中、オツネトンボとホソミオツネトンボ(図4)が陽だまりを求めてふらふらと飛び姿が見られます。この2種は成虫で越冬し、早春になると再び姿を現します。



図1 モイワサナエ(盛岡市藪川)



図2 アキアカネ(八幡平)

### ■変わりつつある風景

蜻蛉が秋の季語となったのは、秋に数えきれないほどの赤トンボが見られたためです。その代表であるアキアカネは、2000年ころ、全国各地で急速に個体数が減少しました。

この原因と考えられているのは農薬、特に、殺虫剤として使われているフィプロニルです。この農薬は、田植えに使う苗に処理しておき、害虫による食害を防ぐもので、作業労力や使用量を減らすことができ、水中で速やかに分解されるため環境中への残留や流出も少ないとされていました。

しかし、2002年の岩手県農業研究センターによる影響評価では、フィプロニルを処理するとアカネ属のトンボ幼虫が1/4に激減し、1頭も羽化しませんでした。また、2016年の国立環境研究所による実験水田での試験でも、同様の結果が示されました。

農薬は、市場に出る前に魚類やミジンコなどへの毒性が調べられ、安全性



図3 オニヤンマの産卵(北上市稲瀬町)



図4 ホソミオツネトンボ(岩手町御堂)

を確認されたものだけが使用されています。ところが実際に使ってみると、アキアカネのように、試験されていなかった生物に思わぬ被害をもたらすことがあります。

農作物の安定した生産のために農薬は必要なものですが、生態系への影響にも配慮が必要です。新しい農薬が野外で使用される際には、地域の生物に変化が生じていないか、並行して調査を行うべきでしょう。

### ■見過ごされる変化

岩手県でもアキアカネが減少したことは間違いのないのですが、過去にどれくらい生息し、いつからどの程度減ったのかといった調査記録がありません。個体数の多い普通種は調査の対象になりにくく、このように、気が付いた時には状況が大きく変化していたという事態が起こります。

40代以上の方は、アキアカネが今よりずっと多かった時代の風景を見ているはずですが、個体数が減ったことに気づいていただいでしょうか。私の場合は、言われてみれば昔はもっといた気がする、という程度の認識でした。風景を何気なく見ているだけでは変化に気づくことは困難で、記憶や写真だけではなく、量的な観察結果を記録に残すことが大切です。当館でも今後、継続して調査記録を残していきたいと考えています。

### ■ネット情報から再発見

どこにどんな生き物がいるかといった情報の多くは、個人的に行われる自然観察に頼ってきました。今も自然に親しむ人はたくさんおり、インターネット上で公開されている、生き物たちの写真やその生息状況の記述は現状を伝える貴重な記録となっています。実際に、調査で大変参考になった例を紹介します。

アキアカネと同じアカネ属に、成熟すると黒くなるムツアカネというトンボがいます。本州では生息地が限られており、岩手県や長野県など数県の山地だけで見られます。岩手県での生息地は八幡平と栗駒山周辺の湿地とされていますが、近年、八幡平付近では生息が確認されていませんでした。

当館には1978年7月と1979年8月に八幡平の島沼で採集された標本があります。島沼は旧松尾鉱山付近にあり、この一帯は落盤の恐れがあるために立ち入り禁止になっているので、現在は調査ができません。そこで、付近の御在所湿原の他、黒谷地湿原や八幡沼周辺などで調査を行いましたが発見できず、もしかすると八幡平周辺からはいなくなってしまったのではと心配していました。

そんな中、個人のブログやツイッターに、2020～2021年にかけて岩手山の御苗代湖でムツアカネを撮影した写真が掲載されていることを教えてもらいました。この情報をもとに2021年10月初めに現地調査を行い、10頭以上が湖の上を飛び交い、産卵する様子を確認することができました(図5)。その後、同じくツイッターの情報から、千沼ヶ原にも生息することがわかりました。

初めの調査は過去の記録を参考にして8月前半に実施しましたが、今回確認さ



図5 連結して産卵するムツアカネ  
(岩手山御苗代湖)

れたのはいずれも9月末から10月初めでした。もしかすると、これまでの調査は時期が早すぎたのかもしれない。特定の期間だけに生き物を見に行くのではなく、一年を通して調査することの必要性を改めて感じました。

#### ■最小のトンボがすむ湿地はどこに

現在情報を集めているのが、体長約2cm、世界最小といわれているハッチョウトンボ(図6)の生息地です。背の低い草が生える、水深の浅い湿地に生息しています。岩手県では多くの市町村で記録がありますが、浅い湿地は次第に草原化して消えてしまうため、安定して発生する生息地は滝沢市の春子谷地などごく限られています。

2020年、大船渡市の牧場跡で新たな生息地が見つかりました。生息する範囲は狭いのですが、多い時には100頭以上もの成虫を確認できました。しかし残念なことに、この場所は大規模太陽光発電施設の建設予定地となっています。工事によってどのような影響を受けるか、大変心配しています。

太陽光エネルギーなどの再生可能エネルギーは、環境に優しい印象を持たれていますが、そのための工事は地域の生態系に悪影響を与えることがあります。守るべき生き物たちの生息地を保全する、十分な配慮が行われるべきです。



図6 ハッチョウトンボ(滝沢市春子谷地)

#### ■トンボはおやつ?!

もう一つ、興味を持って調べているのがトンボを食べた記録です。

トンボはかつて漢方薬や民間薬として利用されていました。大正時代の昆虫学者、三宅恒方による「食用及薬用昆虫に関する調査」(1919年)によれば、16の府県で薬として使われており、岩手県では「あきとんぼ(地方名しもあけじ)」を黒焼きにして粉末にし、子供の百日咳に用いたとあります。最近行った聞き取り調査でも、昭和の初めころに明治生まれの祖母がトンボを粉にして薬として出してくれた、という体験談がありました。

一方、食用については、長野県で成虫と幼虫、秋田県、山形県、福島県で幼虫を食用としたとありましたが、岩手県では記録されていませんでした。

しかし最近の聞き取り調査から、1960～70年代ころに県北でトンボが食べられていたことがわかりました。食べ方は、頭、翅、尾(腹部)を取り、胴体(胸部)をそのまま食べたとのことで、特に調理は行われなかったようです。食用とした種類は主に赤トンボのなかまで、「くるまとんぼ(ミヤマアカネ)が一番おいしかった」などの話がありました。また、イナゴの様にたくさん集めておかずにしていたのではなく、気が向いたときに捕まえて食べる程度で、どうやらおやつのような扱いだったようです。

岩手県でのトンボ食がもっと以前から行われていたのか、県北以外ではどうかなど、まだわからないことがたくさんあります。ちなみに、近年の記録では2000年代に秋田県で、トンボの背を割って吸っていたという例があることもわかりました。県内に限らず、トンボを食べた話をご存じの方は、ぜひ情報をお寄せください。

## ■展覧会案内

## 第71回企画展 「赤色に宿るチカラ」

会期 令和4年6月11日(土)～令和4年8月21日(日)

日常生活のなかで、赤色はどこにでも見出されるありふれた色です。それは可視光の中で最も波長の長い色であり、人々の意識や思考に多大な影響を与えてきました。また、力強さを想起させ、血液をイメージさせる命の色であり、太陽がもたらす暖かみや明るさの象徴でもあります。何気ない色でありながら、赤色は私たちの心を時に躍らせ、時に威圧する奥深い色なのです。

人々はどのような色の材料を利用し、どのような資料に赤色で表現してきたのでしょうか。その表現にはどのような願いが込められてきたのでしょうか。本企画展では、その赤色に込められた人々の願い、特に強さ・美しさ・暖かさを求めたと考えられる多彩な資料を展示いたします。身近な赤色が時にパワーを秘め、私たちの生活に活力や彩りを与えてくれていることを知っていただく機会になれば幸いです。

## プロローグ 赤の地質学

## ～いわての岩石が語る太古の赤～

人類が誕生する以前から地球上は様々な色に溢れ、赤く輝く岩石が豊富に存在しています。いわての大地にも多くの赤い岩石が存在し、人々はこれらを巧みに利用し、自然への畏敬の念を表しました。ここでは赤い岩石のなかでも特に人々に利用された鉱石について紹介します。



辰砂鉱石  
(住田町 蛭子館跡付近採集資料 館蔵)

## 第1章 赤の考古学

## ～いわての旧石器から近世資料で探る先祖を魅了した赤とは～

はるか25,000年前の後期旧石器時代、人々が赤色を特別視していたと推測される資料が見つかっています。赤と黒のクレヨンです。人々が何かを描こうとしたとき、手に取ったのはこの2色の岩石でした。それは現代にも通ずる配色であり、日本人にとっては冠婚葬祭に欠かせない色です。なぜ私たちの儀式には赤と黒が尊ばれたのか？それは大きな謎ですが、ともかくもその根源は旧石器時代の人々の暮らしのなかにあったのです。



丸子遺跡出土の黒と赤のクレヨン  
(北海道千歳市教育委員会蔵)

赤色は、縄文時代以降も儀式の場で使われ、人々の暮らしに彩りを与えました。墓の内部を彩る甲いの色、衣服の美しさや派手さを示す強調の色、木製櫛に真っ赤に塗られたお洒落の色など、「赤色に宿るチカラ」を巧みに使いこなしました。



縄文時代中期の深鉢形赤彩文様土器  
(山田町石峠遺跡出土 岩手県蔵)

特に土器においては、その出土状況に応じて様々な用途が想定されています。古代東北部の蝦夷と呼ばれた人々には、赤彩文様土器を儀礼具として使用する文化がありました。この土器文様は、どこか呪術的でありながら、どこか美しく、そしてどこか雑という特徴をもちます。当展覧会では、県内の出土資料のうち主に文様に着目した資料を紹介します。



熊堂古墳群出土の赤彩文様土器  
(花巻市博物館蔵)

## 第2章 岩手に残る服飾文化の赤

第1章の考古資料は主に鉱物顔料の赤色でしたが、本章では染料の赤色に着目し、様々な赤い服を紹介してまいります。その中で本展覧会の目玉の一つである伝南部信直公所用の緋羅紗地合羽を7月下旬より期間限定で特別展示いたします。猩々緋と呼ばれる鮮やかな色彩を是非ご堪能下さい。

(主任専門学芸員 米田 寛)



国指定重要文化財 緋羅紗地合羽  
(もりおか歴史文化館収蔵)

### 第3章 異形・異界の赤

#### ～赤の民俗学～

赤色は、炎の色・血の色・太陽の色などとして象徴的に用いられてきました。また、鬼や天狗など不思議な力を持つ異形の者たちは、赤色で表現されることも多く、その色によって特異な霊力や異界のただならぬ雰囲気<sup>かも</sup>を醸し出し、人々に畏れを抱かせてきました。畏れとチカラの表現として用いられてきた赤色表現の諸相を紹介します。

仏像の光背と呼ばれる部分には、雲や蓮華、宝珠などが見られますが、明王像の光背の多くは赤く燃え盛る炎の形、いわゆる火焰光<sup>かえんこう</sup>（火焰光背）で、煩惱<sup>ぼんのう</sup>を焼き尽くす炎であるとされます。



木造不動明王坐像と両脇侍像  
紫波町指定文化財（新山神社蔵）

この不動明王坐像の火焰光は、迦楼羅<sup>かろうら</sup>焔と呼ばれます。迦楼羅とはインド神話に登場するガルダという霊鳥で、煩惱の象徴である毒蛇を食べるといわれています。迦楼羅焔は、この霊鳥・迦楼羅の頭の形や翼を広げる姿、口から吐く炎を表現しています。大日如来の教えに従わない者に忿怒<sup>ふんぬ</sup>の相で教化する不動明王像の光背は、不浄なものを焼き清める迦楼羅の焔が赤々と力強く表現されています。



地獄絵図 照井玉梅画 明治末期  
(碧祥寺蔵)

碧祥寺（西和賀町）所蔵の地獄絵図には、亡者が閻魔大王の裁きを経て地獄をさまよひ、責め苦を受ける姿が四幅にわたって描かれています。地獄で罪人を焼く赤い業火や罪人の血を表現する赤が効果的に用いられています。地獄は炎で責めさいなまれる場という意識が濃厚に見られます。

### 第4章 祈りと色彩

日本語の研究によれば、色名の「赤」は色の明度を表す「明」を意味し、「暗」を意味する黒に対応する光の系列を示す色とされています。赤色は白色と対で紅白など祝意の感覚、ハレ感覚をとめない、縁起物や祝い事などにも使用されてきました。民俗文化では概して赤色の呪術的力を反映した事例が多く、例えば<sup>ほうそう</sup>除夜の郷土玩具にも多く見られます。

ここでは、赤色が古来より日本人にどのような色として認識されてきたのかを『古事記』や『延喜式』、『平家物語』など様々な書物の記述からも紹介します。また、赤・白・黒・青といった色彩が岩手県の祈りの風景の中でどのように見られるのかについて紹介します。

#### ～いわての祈りの色・赤～

一関市大乘寺に奉納されているオシラサマは、盲目の巫女であるオガミサマとのつながりが非常に濃く、旧家にまつら

れるオシラサマのように蚕の神、農業の神という性格ではなく、祭具として用いるオシラサマです。おさめられている200体のオシラサマの着物の色は赤です。他地域においてもオシラサマが好むという赤い着物を着せることが多い傾向にあります。



大乘寺（一関市）のオシラサマ

#### エピローグ 身近な赤

##### ～昭和の赤、スポーツの赤～

赤色は視覚に入ると刺激の性質を発揮し、目につきやすいといわれます。そのため、交通信号の「止まれ」を示すサインや火に関係する器具類（消火器や火災報知器）などに使用されています。また、昭和の家電や看板、昭和のヒーローも、見る者の注意を引くという赤色の特性を活かした配色となっています。昭和の懐かしい赤い家電やおもちゃを展示します。また、岩手県で活躍するスポーツ選手の赤いユニフォームなどに注目し、色に込められたチームや選手の思いを紹介します。（主任専門学芸員 近藤 良子）



山の駅 昭和の学校（花巻市）蔵

## ■事業報告

## 博学連携事業 岩手県立平舘高等学校の生徒による操り人形装束製作

体験学習室ハンズオン資料の製作

人形芝居はテレビが家庭に普及する以前、庶民のささやかな娯楽として大変人気がありました。岩手県では花巻市東和町において倉沢人形歌舞伎（国選択無形民俗文化財）や奥州市江刺の広瀬人形芝居常楽座（県無形民俗文化財）が継承されており、根強い人気があります。

当館は平成27年度から県立平舘高等学校家政科と連携し、服飾文化の学習・普及を目的として、体験学習室内で装束をはじめとする様々なハンズオン資料の製作を行っています。現在同学習室には当事業で製作した鹿鳴館夜会服、大正期の女学生装束、雫石あねこ装束、水干、大漁バンテンを設置しています。ここに親子で楽しめる操り人形を加えることを目的として事業をスタートしました。

事業内容としては、担当教諭による授業時の指導を基本とし、当館学芸員による事業の意義や操り人形の歴史を解説する講座の開催、花巻市東和の倉沢人形歌舞伎伝承館の見学、東亜和裁・浅野千津氏による「和服について」の講義及び実技指導などを実施しました。

民間団体の人形装束は、着物の端切れや古着を再利用して作られることが多いため、当事業でもそれに倣って古着を活用することにしました。令和3年度は、和服（女物）1着以上製作を目標に夏休み明けから製作をスタートし、型紙を生地<sup>おくみ</sup>に当てて採寸・裁断作業を行い、着物の各パーツを用意し、10月には背縫いや前見頃と衽を縫い合わせる作業までを終えました。絵柄を合わせるところが難

しかったようですが、細部にこだわりを感じさせる仕上がりになりました。12月には紙粘土による頭づくりも行い、1月上旬に人形一体分が完成しました。



完成した操り人形と製作した生徒たち

完成した操り人形は当館体験学習室にて、皆様のご来館をお待ちしております。是非お手に取り、操り人形の面白さをご体験ください。

（主任専門学芸員 米田 寛）

## ■活動レポート

## チャレンジ! はくぶつかん

当館では、主に毎月第2・第3土日に、小学生向けの「チャレンジ! はくぶつかん」を開催しています（詳細は当館HPや館内掲示等をご覧ください）。受付で「チャレンジシート」をもらい、展示資料を見ながらクイズに答えるイベントで、長く人気があります。

展示資料近くに貼ったチャレンジマークの色が主なクイズなので、小さなお子様でも気軽に参加でき、ご家族やグループで広い館内を探しながら楽しく見学できます。毎月異なるテーマでクイズが作られていますので、今まで注目していなかった展示資料と新たに出会える機会にもなり、いつも新しい発見ができると好評をいただいています。

「チャレンジ! はくぶつかん」に挑戦

すると、カードにスタンプがもらえます（各月に1個）。スタンプが4個たまるとに景品と交換ができ、受付で当館オリジナルの文房具をもらえます。毎月挑戦して12ヶ月分のスタンプがたまると皆勤賞となり、来館時に表彰して記念品を差し上げています。

令和3年度は右の22名の皆さんが最優秀チャレンジャー（皆勤賞受賞者）となりました。今年度も皆様の挑戦を心よりお待ちしております。



## ★★★おめでとうございます★★★

- 5回目 大林志聞さん  
4回目 小笠原多映さん、滝村菜々子さん  
櫻田真尋さん、悠悟さん  
篠田典子さん  
3回目 金子侑隼さん、莉子さん  
工藤歩由さん、大林美萌さん  
滝村紗和子さん、他2名  
2回目 原慶期さん  
初めて 三門煌さん、湊さん、篠田誠さん  
木皿悠斗さん、土佐双葉さん  
近藤綺音さん、颯祐さん  
小原さくらさん

※表彰風景は、館内2階のミニプラザ掲示板にて紹介しております。

（専門学芸調査員 高橋 雅雄）

## ■事業報告

## トピック展「小林陵侑選手ジャンプスーツ」

2022年2月4日から20日までの17日間開催された北京冬季オリンピック。この大会では、コロナ禍に翻弄されながらも鍛錬を続け、夢の舞台に立ったアスリートの皆さんの姿に、日本中から大きな声援が送られました。本大会には、6名の岩手県出身アスリートが出場し、活躍が注目されました。特に、八幡平市出身の小林陵侑選手は、大会のクライマックスと言ってもよい活躍を見せてくれました。本県出身者として2人目の冬季オリンピック金メダリスト、そして本県出身者としては初の二種目でのメダリストとなりました。加えて団体戦でのチームメイトを励ます姿も、私たちを感動させてくれました。

当館では、小林選手が2016年の大会

で実際に着用したジャンプスーツを、八幡平市の株式会社サラダファーム様よりお借りし、グランドホールにて展示いたしました。このスーツは平昌冬季オリンピック後の2019年に、兄の小林潤志郎選手と一緒に書いた色紙などと一緒に、サラダファーム様に寄贈されたものです。

今回の展示は、展示開始日から多くのお客様に、足を止めてご観覧いただきました。また、展示期間中に、2022シーズンのジャンプW杯で小林選手が2度目の総合優勝に輝くという嬉しいニュースも届きました。世界を舞台に活躍する選手を身近に感じていただきたい、との思いで展示をいたしましたので、皆様にとって本展示がそのような機会になって

いれば幸いです。

貴重な資料をお貸しいただいた株式会社サラダファーム様には、重ねて感謝申し上げます。そして、小林陵侑選手をはじめ、本県出身のアスリートの皆様の更なるご活躍を祈念いたします。



(専門学芸調査員 工藤 健)

## ■解説員室より

## 博物館を見た後は…

お寺に行ってみませんか？

今回は、博物館をご覧になった後の楽しみ方をご提案したいと思います。

博物館には、県内の仏像の複製資料が展示されています。それらをご覧になった後は、実際にそのお寺に行ってみませんか。ふらっと行ってみるのもいいのですが、せっかく訪れるのなら、お寺の行事に参加してみるのはいかがでしょうか。ほとんどのお寺では、檀家さんに限らず、一般の方も歓迎していただけます。

行事に参列すると、普段は入れない場所を見学できたり、通常では公開されていない秘仏を拝めたり、また、日常では味わえない異文化体験を堪能することができます。是非、新しい世界をのぞいてみてください。

それでは、行事を複製資料とともに、

いくつかご紹介します。

博物館の入口には、成島毘沙門堂（花巻市東和町）の「兜跋毘沙門天立像」があります。毘沙門堂境内では、毘沙門まつり・全国泣き相撲大会がゴールデンウィークに開催されています。生後6か月から1歳半までの赤ちゃんが出演し、先に泣いたほうが負けとなる、ほほえましい取組が展開されます。

歴史展示室では、黒石寺（奥州市水沢）の「薬師如来坐像」がありますが、毎年1月下旬頃（旧暦1月7～8日）に蘇民祭が行われています。

他にも、「如意輪観音像」がある正法寺（奥州市水沢）では、毎年10月16日に正法寺の開創を祝う熊野大権現大祭祈禱会が開かれています。

博物館の仏像複製は、実物から型をとって作られています。そのため、細部にわたり実物そのものの形状を成しており、いわば分身ともいえるものです。仏像は信仰の対象となる大切なものですので、型取りの前には魂抜きの法要が、型取り後は魂入れの法要が執り行われました。

そうして出来上がった複製は、複製だからこそ、間近で拝むことも、仏像の背部の様子を見ることも可能にしたのです。

博物館観覧をきっかけに、お寺に行ってみませんか。

現在コロナ禍で、行事予定が変更や中止となっているところが多々ありますが、まずは博物館をじっくり見て、計画を立ててみてはいかがでしょうか。

(解説員 四ツ家 絵里)



# 岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

## インフォメーション

〈令和4年6月1日～令和4年9月30日〉

### 新型コロナウイルス感染防止への対応について

新型コロナウイルスへの対応のため、制限を設けながら開館しております。  
 入館の際にはマスクの着用をお願いしております。また手指の消毒、体調確認や体温測定へのご協力をいただいております。  
 混雑する場合は入館や利用を制限し、状況によって臨時休館となることがあります。来館される皆様には大変ご面倒をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。  
 最新の情報につきましては当館ウェブサイト、SNS等でお知らせいたしますので、ご確認くださいませますようお願いいたします。

- ・「体験学習室」は、一度に利用できる人数を大人こども合わせて15名程度とし、超過した際には入室をお断りいたします。平日は、9:30～16:00に開室し、12:30～13:30は消毒などのため、一時閉室いたします。岩手緊急事態宣言期間中は土日祝日と長期休暇期間は閉室いたしております。詳細はお問い合わせください。
- ・「映像室」は定時上映のみ行い、上映開始後の途中入場はご遠慮いただいております。詳しくはお問い合わせください。
- ・幼児～小学生向けのイベント「たいけん教室」は、定員を減らして開催しています。
- ・団体での入館は午前・午後各100名程度までとします。解説時は30名まで受付、さらに数グループに分かれていただくことがあります。

### ■ 展覧会

#### ● 企画展「赤色に宿るチカラ」

令和4年6月11日(土)～令和4年8月21日(日)

会場：2階・特別展示室

#### ◆ 展示解説会

①6月19日(日) ②7月17日(日) ③8月14日(日)

各回とも14:30～15:30 会場：特別展示室 当日受付 要入館料

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員を15名と制限しております。

#### ● テーマ展「水辺の生きもの」

令和4年9月23日(金・祝)～令和4年12月4日(日)

会場：2階・特別展示室

### ■ 県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

#### \* 展覧会関連講座

6月12日「世界の中の岩手ー明治初期の出来事を通してー」

講師：工藤健(当館学芸員)

6月26日「盛岡藩の諸職人について(仮)」 講師：昆浩之(当館学芸員)

\* 7月10日「押出遺跡の漆製品から探る縄文ロジスティクス～人・モノが紡ぐ交流の物語～」講師：水戸部秀樹氏(山形県埋蔵文化財センター)

\* 7月24日「古代国家との境界に生きる～蝦夷の赤い土器から探る集団関係～」 講師：米田寛(当館学芸員)

\* 8月 7日「赤彩表現される異界・異形のものたち」 講師：近藤良子(当館学芸員)

8月21日「地質観察地の今昔(仮)」 講師：佐藤修一郎(当館学芸員)

9月11日「江戸～明治の大衆娯楽についてー操人形芝居を中心にー(仮)」

講師：木戸口俊子(当館学芸課長)

\* 9月25日「岩手の水辺の生きもの：特に野鳥について」

講師：高橋雅雄(当館学芸員)

### ■ 第83回地質観察会

北上市西部、地層は続くよ ～竜の口層貝類化石をもとに～

7月3日(日) 10:00～15:15 要事前申込

定員：20名程度

募集期間：6月7日(火)～6月12日(日)

応募方法：往復葉書またはメールにて受付(※先着順・定員充足次第締切)

参加費：100円(保険料)

### ■ ナイトミュージアム

8月5日(金)・6日(土) 16:30～17:30 要事前予約

小学生～中学生向け

定員：各日20名(小学生～中学生とその保護者)

募集期間：7月20日(水)～7月27日(水)の開館時間内

申込方法：9:30～16:30に来館、または電話にて受付

※先着順・定員充足次第締切

持ち物：懐中電灯

### ■ 週末の催し

#### ◆ ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13:30～15:00頃 講堂 当日受付 視聴無料

○6月4日 家族の絆(実写/107分/一般向け)

サクラサク(107分)

○7月2日 夏休み直前アニメスペシャル

(アニメ/計81分/幼児～小学生向け)

ねぎぼうずのあさたろう(25分)

楽しい民話と宮沢賢治の世界(3話・計56分)

○8月6日 平和への祈り(アニメ/83分/幼児～一般向け)

ガラスのうさぎ(83分)

※9月はお休みします

#### ◆ チャレンジ! はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

チャレンジ! マークをさがして はくぶつかんをたんけん!

6月11日・12日・18日・19日 テーマ：赤(あか)

7月 9日・10日・16日・17日・18日 テーマ：風(かぜ)

8月13日・14日・20日・21日 テーマ：南(みなみ)

9月17日・18日・19日・24日・25日 テーマ：水(みず)

#### ◆ たいけん教室～みんなのためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13:00～14:30

幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生5名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょ。

※全プログラム有料です(材料費代/プログラムごと異なります)。

※予約は専用メール(一度に3名まで)で受け付け、応募多数の場合には抽選を行います。詳細は博物館ホームページをご確認ください。

※9月はお休みです。

6月	5日 チャグチャグ馬こづくり 12日 砂絵 19日 手づくり万華鏡 26日 ウォータードームづくり	8月	7日 天然石のフォトフレーム★ 14日 お絵かきはんこ 21日 化石のレプリカ 28日 3Dメガネで万華鏡
7月	3日 スライムであそぼう 10日 まが玉アクセサリー 17日 ちぎり絵のうちわ 24日 ミニさんさだいこ ★ 31日 カラフルクモづくり ★	9月	9月はお休みです

★印は午前(10:00～11:30)と午後(13:00～14:30)の2回あります。

### ■ 利用のご案内

■ 開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

■ 休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

年末年始(12月29日～1月3日)

資料整理日(9月1日～9月10日)

■ 入館料 一般310(140)円・大学生140(70)円・高校生以下無料

( )内は20名以上の団体割引料金

※若手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様と一緒に来館された場合は、入館料免除となります。

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第173号 令和4年6月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831/Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235/Fax. (019)625-3595
-----------------------------------	---